

TOPICS

2026年6月より、救急災害医療センターを開棟いたします。

NEWS LETTER

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センターニュースレター

発行
名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL:052-853-8062
E-MAIL:diversity@sec.nagoya-cu.ac.jp
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/gender/



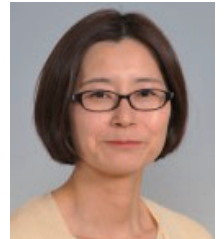
Vol.26
2026.Mar.

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター長からのメッセージ

現代社会においてダイバーシティの推進は、大学が持続的に発展していくための基盤であり、本学の教育・研究・医療活動を支える重要な理念です。性別、年齢、国籍、障害の有無、ライフステージや価値観の違いを尊重し、多様な構成員が安心して学び、働き、挑戦できる環境を整えることは、大学全体の創造性と社会的信頼の向上につながります。

ダイバーシティ推進センターでは、男女共同参画の推進、次世代育成支援、障害者・高齢者・外国籍の方々への支援、市大病院群を含む全学的な職場環境の整備などに取り組んでいます。管理職が率先して働き方改革に取り組む体制づくりを進めるとともに、育児・介護等と研究・業務を両立する教職員を支援する研究支援員制度の充実も図っています。

また、優れた実践を顕彰する「ダイバーシティ推進奨励賞」の実施に加え、講演会や授業の開催を通じて理念を広く発信するとともに、学生や教職員をはじめとする本学の構成員一人ひとりの意識醸成と啓発にも継続的に取り組んでいます。今後も本学の基本方針と連動しながら、多様性を力に変える大学づくりを着実に進めてまいります。皆様の一層のご理解とご参画をお願い申し上げます。



センター長 山本 陽子
(経済学研究科教授・学長補佐)

学生と教職員の懇談会 滝子(山の畑)キャンパスにて開催

1月23日に、学生と教職員の懇談会を開催し、学生116名と教職員32名のあわせて148名の参加がありました。

16グループ(教職員2名×学生8～9名)のグループトークを実施し、前半と後半で教職員のグループ換えをしました。自己紹介と教職員からの話題提供後、意見交換を行いました。

教職員のワークライフバランス、社会人生活からダイバーシティへの考え等、様々な質問や意見が飛び交い盛り上がりました。

参加者からは「グループディスカッション形式で、大学職員の皆様だけでなく、他の学生さんとも交流できて、様々な考え方や感じ方を学ぶことができ、このディスカッションこそがダイバーシティであると思い、とても有意義な時間でした。(学生)」「今までにない楽しい授業でした。人生の先輩の「生」の声を聴くことが出来て、自分のキャリアについて、人生について考えるきっかけになりました。貴重な大学4年間を意味のあるものにするように、たくさん経験を積んでいきたいです。(学生)」「教職員2名と学生8名でメンバー構成のバランスが良く、和気あいあいと楽しく交流することができた。大学1年生から社会人と関わる機会を設けていてとても良い授業だと感じた。(教職員)」等、参加した学生・教職員ともに好評で、学生と教職員の距離が近くなるイベントとなりました。



障害者雇用推進セミナー 桜山(川澄)キャンパス開催 「“ちがい”が彩りになる職場へ～共に働く喜びを～」

11月11日および11月12日に障害者雇用推進セミナーを開催し、教職員56名の参加となりました。

講師として愛知労働局名古屋中公共職業安定所より精神・発達障害者雇用サポーターの大澤美紀氏をお迎えいたしました。





ダイバーシティ推進セミナー 滝子(山の畑)キャンパス開催

「働き方は選ぶ時代～LGBTQとこれからのダイバーシティ～」

12月19日にダイバーシティ推進セミナーを後期教養科目「ワークライフバランスとダイバーシティ」内で開催。講師として、一般社団法人ELLYより理事の峰山和真氏をお迎えいたしました。

セミナーでは、ご自身の経験等も踏まえながら、なぜLGBTQについて学ぶのか、なぜ取り組む必要があるのか、何から始めればいいのか、クイズやワークを通して楽しくお話いただきました。

セミナー後は「性別に対する本人の違和感や周囲の理解不足、制度上の壁など、教科書では分からない現実の重さが強く印象に残った。一方で、自分らしく生きるために選択を重ねてきた姿からは、大きな勇気と覚悟を感じた。」「この授業を通して、多様な性のあり方を理解するだけでなく、相手を一つの属性で判断せず、一人の人として尊重する姿勢の大切さを改めて感じました。」「今回の講義を受けて、多様な考え方や生き方があることを理解しようとする姿勢が大切だと感じました。すぐに完璧に変わることは難しいですが、まずは自分の言動を見直し、相手を尊重する関わり方を意識していきたいです。この講義を受けることができ、本当によかったと思いました。」等の感想が寄せられ、多様性を受け入れることは何かということを学生たちが考えるきっかけとなりました。



研究支援員制度 利用者の声

出産、育児、介護等により研究時間が限られている研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、毎年度、研究支援員を配置しております。令和7年度は男性1名、女性9名の研究者が採択されました。本制度をご利用いただいた皆様の声をご紹介します。(一部抜粋)

看護学研究科 国際保健看護学 助教 吉野 亜沙子

子育てや家事といった家庭のことと研究の両立が時間的になかなか難しい中、研究支援員のサポートにより、研究のスピードが劇的に上がりました。支援員からも、本支援員の仕事により、自身の研究力向上に繋がったため、とてもありがたかったと言ってもらえ、お互いに協力しあい、成果に繋げることができ、大変感謝しております。

医学研究科 周産期母子医療センター 准教授 後藤 志信

臨床業務、教育関連業務に終われ実際に手を動かして実験作業をする時間が捻出できない中、サンプルの処理を進めていただき研究が進みました。

医学研究科 循環器内科学 助教 山邊 小百合

子育てと仕事の両立に悩む中、研究支援員の支えにより学会・論文発表が実現しました。今後も支援の継続を願います。

医学研究科 公衆衛生学 講師 中川 弘子

研究に集中できる時間と環境が確保され、新たな解析にも着手ができました。本制度は大きな支えとなっております。

医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 講師 竹中 菜々

国際共同研究の調整と、画像解析・統計解析等、専門的でおかつ時間を要する作業を支援いただき、研究推進に大きく寄与しました。

医学研究科 統合解剖学 講師 村嶋 亜紀

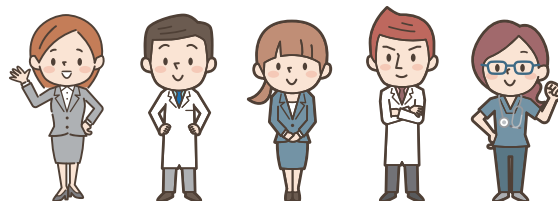
前職の大学では支援員制度がなく、補助員の雇用財源が採れないときは、パワーが足りず途方に暮れたこともあり。大学のサポートを大変心強く思います。

看護学研究科 先端医療看護学 教授 窪田 泰江

育児+看護学研究科長の仕事で研究時間が持てない状況でしたが、支援員のおかげで様々な取り組みができ、本当に感謝しています。

看護学研究科 性生殖看護学・助産学 講師 田中 泉香

育児中で時間確保が難しい中、研究支援員制度により安心して研究を継続できており、心強く感じています。



第13回ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会

1月27日に、第13回ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会を開催しました。本件は、ダイバーシティ推進に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員及び学生等に対して、学長から表彰を行うもので、今年で13回目となりました。



受賞者

活動・教職員部門 薬学研究科 高岸 麻紀「女性研究者育成活動」

活動・学生部門 名市大学習支援サークルつばめ
「多様性を尊重した子どもたちの居場所づくりと教育格差解消を目指した学習支援活動」

今回は5件の応募のうち2件が受賞となり、賞状と花束の授与及び記念品の贈呈がありました。受賞後の事例報告では、ダイバーシティ推進にむけて積極的に行われた活動の報告に、郡理事長、浅井学長、鈴木事務局長も非常に熱心に耳を傾けられ、今回の活動について、この場での発表にとどまらず継続して研究・活動してほしいとお話くださいました。今後のさらなるダイバーシティの推進に向けて、活発な意見交換が行われ、大変意義のある会となりました。ダイバーシティ推進奨励賞は、本学卒業生も対象となっております。本学ホームページやポスターでもご案内しますので、みなさま奮ってご応募ください。

教養教育科目「大学特色科目」の紹介

ダイバーシティ推進センターでは、学生が社会的性差(ジェンダー)と平等について理解し、考え方や行動に生かすことができるように、平成24年度から「大学特色科目」として、前期と後期に1科目ずつ開講しています

前期 地域社会で活躍する女性

ジェンダーについて総合的な知識、情報を得るとともに、企業や自治体における男女共同参画への取り組みや女性経営者たちの経験を通して、社会における新しい働き方を学ぶ科目です。ジェンダーの固定的役割にとらわれることなく、柔軟な発想と多様性の尊重により、企業や自治体における男女共同参画をふまえた働き方を考える機会となりました。



グループワークの様子

後期 ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ

名市大の各研究科と大学病院の教職員が理系・文系という学問の多様性を超えてダイバーシティについて多面的に講義を展開しています。また、今年度は授業の中でイコールなごやシンポジウムを開催し、アンコンシャス・バイアスについて学びました。



イコールなごやシンポジウムの様子

第1回(4/18)	ダイバーシティ推進センター 副センター長 安部賀央里	ガイダンス
第2回(4/25)	名古屋大学大学院 法学研究科 教授 田村哲樹	ジェンダー論
第3回(5/2)		男性の家庭参画
第4回(5/9)	名古屋市スポーツ市民局 市民生活部男女平等参画推進課	名古屋市の 男女共同参画
第5回(5/16)	名古屋市総務局 職員部人事課	名古屋市における 女性の活躍(1)
第6回(5/23)	名古屋子ども青少年局	名古屋市における 女性の活躍(2)
第7回(5/30)	特定非営利活動法人参画プラネット 常任理事 重原惇子	男女共同参画の推進
第8回(6/6)	株式会社キャリアビジョン 代表取締役社長 野村恵美子	企業における 女性の活躍(1)
第9回(6/13)	社会保険労務士法人名南経営 特定社会保険労務士 宮武貴美	企業における 女性の活躍(2)
第10回(6/20)	リゾートトラスト株式会社 人事企画部 吉田幸代	企業における 女性の活躍(3)
第11回(6/27)	中北薬品株式会社 総務人事本部 森有紀子	企業における 女性の活躍(4)
第12回(7/4)	一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表理事 百瀬則子	企業における 女性の活躍(5)
第13回(7/11)	株式会社システム 代表取締役社長 塩崎敦子	企業における 女性の活躍(6)
第14回(7/18)	フリージャーナリスト 山本恵子	外部講師を招いた 全体討論
第15回(7/25)	ダイバーシティ推進センター センター長 山本陽子	全体討論

第1回(9/26)	ダイバーシティ推進センター 副センター長 安部賀央里 名古屋市役所人権施策推進課	ガイダンス/ 同和問題(部落差別)の 正しい理解
第2回(10/3)	薬学研究科 教授 中務邦雄	ジェンダーと科学
第3回(10/10)	データサイエンス研究科 准教授 安部賀央里	アンコンシャス・バイアス
第4回(10/17)	薬学研究科 講師 青木啓将	大学におけるダイバーシティ
第5回(10/24)	芸術工学研究科 教授 太幡英亮	Space for Diversity
第6回(10/31)	イコールなごや	イコールなごやシンポジウム
第7回(11/7)	看護学研究科 准教授 大橋麗子	子どもの権利と子ども虐待
第8回(11/14)	薬剤部 田崎慶彦	仕事人と家庭人の両立
第9回(11/21)	病院看護部 看護師 西川貴文	男性看護師から見たダイバーシティ -看護における男性・女性の協力-
第10回(11/28)	経済学研究科 教授 和久津尚彦	ワークライフバランスと 企業業績
第11回(12/5)	人間文化研究科 教授 宮下さおり	職業におけるダイバーシティ
第12回(12/12)	人間文化研究科 教授 宮下さおり	職業と家庭生活の調和 -オランダモデル
第13回(12/19)	一般社団法人ELLY 理事 峰山和真	ダイバーシティ推進セミナー 「働き方は選ぶ時代 ~LGBTQとこれからのダイバーシティ~」
第14回(1/9)	医学研究科 教授 山崎小百合	医療や医学研究における ダイバーシティ
第15回(1/23)	ダイバーシティ推進センター センター長 山本陽子 副センター長 安部賀央里	ダイバーシティ推進センター 企画への参加 「学生と教職員の懇談会」



自席でできるヨガ講座 桜山(川澄)キャンパス及びオンライン(Teams)開催 「ランチタイム・ヨガ」「夕方・ヨガ」

ランチタイム・ヨガ(3月12日)、夕方・ヨガ(3月18日)を現地及び Teams によるオンラインで開催し、教職員 30 名の参加となりました。講師としてシャインスピーク 木下薫氏(全米ヨガアライアンス認定インストラクター)をお迎えし、「自席でできる」のテーマのとおり、座りながらできるポーズメインのヨガに取り組みました。

開催後のアンケートでは、「自席でできてリフレッシュできるのがよかったです。早速実践します。動きについてのポイントの説明も大変わかりやすかったです。」「手首を動かし始めるだけで、手のひらに赤みを帯びて、血流がよくなりました。午後のお仕事も頑張ろう!!って気持ちになりました。」等の感想が寄せられ、心身ともにリフレッシュできる機会となりました。



各保育所の紹介

本学では、ダイバーシティ推進の趣旨を踏まえた労働・研究環境等の整備のための施策のひとつとして、4か所の学内・院内保育所を各自運営しています。



さくらんぼ保育所

市立大学・病院
(定員70名)



園舎隣の芝生の広場では、柔らかな草の上で寝転がったり草木に触れてみたり、思い切り走ったり斜面を登ったりと自然の中で遊ぶことを満喫しています。そして先日は、幼児クラスのお別れ遠足と合わせて、他クラスのファミリーや今は他園や小学校にいるファミリーも集まっての交流会を行ないました。クラスや学年を越えての子どもと保護者と職員とで過ごすひと時に、子どもを真ん中にした皆での繋がりの大切さを保育者として改めて感じていました。

ぽっぽ保育所

東部医療センター
(定員33名)



クリスマス会を行いました。「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」の曲に合わせて演奏会。タンバリンやすず、マラカスを使いみんなで上手に演奏できました♪
保育者のハンドベル演奏も聞いたり、クリスマスの絵本を見たりなどクリスマスの雰囲気を楽しめました。最後にはプレゼントを持ってサンタさんがきてくれました! “サンタさん、ありがとう!” いいクリスマスになったね。

くさのみ保育所

西部医療センター
(定員45名)



おひなさまをつくったよ

2~3歳児の子ども達がお雛様を作りました。画用紙のお顔に目や口を描いたりシールを貼りそれぞれ個性豊かな表情の素敵なお雛様ができました。写真は屏風に色を塗っているところです。綿棒に絵の具をつけてパタパタとスタンプしました。屏風におひなさまを貼って完成!お部屋に飾るととても華やかになりました。桃の節句では春の訪れとともに子ども達の成長をお祝います。

ぽんぽこ保育所

みどり市民病院
(定員15名)※0・1・2歳児



少人数だからこそできる事をたくさん保育に取り入れ、一緒に楽しむことができました。クッキングでは何が作りたいかを相談し、材料の買い出しも一緒に行い、パンケーキやドーナツ等を作りました。卵割りにも初挑戦!勢いよく飛び出した卵にびっくりし、皆で大笑い☺貴重な体験が沢山できたと思っています。

2025年5月1日現在、本学の女性教員比率は **27.7%** です。